

第 8 回秋田市地域公共交通協議会議事要旨

開催の日時	平成 21 年 2 月 26 日 (木) 午後 1 時 30 分 ~ 3 時 30 分
開催の場所	秋田パークホテル プラチナルーム
委員の定数	24 名
出席委員	20 名 (内代理出席 8 名)
議 事	(1)秋田市公共交通政策ビジョン(秋田市地域公共交通総合連携計画) (案)について

事 務 局	委員の交代の紹介 代理出席の紹介 欠席委員の紹介
会 長	第 7 回秋田市公共交通協議会にて承認いただいた秋田市公共交通政策ビジョン (素案)をもとに、その後、1月22日から2月19日まで意見公募を実施していた。 委員の皆様、約1年半の長きにわたり公共交通政策ビジョンご協力下さったことにお礼申し上げます。
会 長	先ほども申し上げたとおり、前回の協議会において、公共交通政策ビジョンの素案として皆様にお示しし、ご了承いただいたあと意見公募を実施したところであり、ここで寄せられたご意見について、骨子との整合を見ながら必要に応じてビジョンの素案に組み込んだところである。 それでは、秋田市公共交通政策ビジョンの案について説明いただきたい。 議事開始
委 員	資料「秋田市公共交通政策ビジョン(案)に対する意見等の概要と協議会の考え方について(案)」No.5、13の「協議会の考え・対応」を見ると、これからバスの行き先表示が分かりやすくなり、利用しやすくなるのが期待できる。 さらにバスを利用しやすくするならば、No.13にあるようにバス乗り場の分かりにくさを解消したほうがよい。現状ではバス乗り場まで行かなくては案内がない。駅の改札を出てすぐにバス乗り場等の場所を示す案内があると便利である。また、路線を東西南北に分け、主な施設がどこに割り振られているのかを示すと、市外、県外の方にとっても利用しやすくなるのではないだろうか。 JR との連携も視野に入れて、案内表示をより利用しやすくしていただけるとありがたい。
会 長	現状では、改札を出てすぐに案内表示はないのか。
事 務 局	平成 20 年にバス案内サービスを改札のそばに設置しており、それを利用すれば目的地ごとに東口または西口のどの乗り場から乗ればいいのか分かるが、多数の人が使うには不便な状況である。 ポポロード全体を使って案内表示を充実させることを考えている。

委	員	<p>バス案内サービスについては知っている。しかしその端末の場所を知らなければ利用できない。</p> <p>改札を出たとき、誰でもまずは前を見る。例えば岐阜県の場合、駅から出てすぐに、どこに向かえば何があるのかが分かる案内表示がある。しかし、秋田にはそれがない。</p> <p>案内表示には JR の施設を使うこととなるため、市と JR には連携していただきたい。</p>
事	務局	<p>ポポロードを使った案内表示については、JR から協力的な対応をしていただいている。ご指摘の通りにしていきたい。</p>
委	員	<p>郊外部の赤字路線と秋田駅を結んでほしいという、資料「秋田市公共交通政策ビジョン(案)に対する意見等の概要と協議会の考え方について(案)」No.61 の意見に共感している。</p> <p>昨日、会合があったが、金足、下新城、上新城、それぞれのコースで一致している要望は、コースを駅まで繋いでもらいたいということである。また、このためなら、運行頻度の減少や、運賃の値上げもかまわないという意見で一致している。</p> <p>今回の資料では、北部の病院は乗り継ぎ拠点として掲載されていない。この点については再考の余地があるだろう。</p> <p>資料「秋田市公共交通政策ビジョン(案)に対する意見等の概要と協議会の考え方について(案)」No.56 にあるように、バスの経由地をバスに明示することはできないだろうか。もう少し親切な案内がほしい。</p> <p>組合病院で高齢女性が、バスの運転手に経由地を尋ねた際、冬期で寒いため待合室で待っている夫を呼んでくるから待っていてほしいと言ったのにもかかわらず、バスは出発してしまった。組合病院は始発地点であるため出発時間を延ばすことはできないそうだが、この対応の仕方は冷たく感じる。もっと早く、バスの経由地等を知ることができれば、こういったことは起きなかつたらう。</p> <p>県立博物館へは追分駅あるいは金農入口から徒歩で 30 分かかり、冬期はとてもし行きにくい。どのバスに乗ったら博物館へ行けるか分かりにくいので、経由地を明示していただきたい。</p> <p>バスの運賃を値下げし、現在のような 10 円単位ではなく 100 円単位にして分かりやすくすれば、「緑バスサポーター」といった団体ができる等、バス利用を促進する運動に繋がるのではないだろうか。</p> <p>秋田駅東口 5 番線は送迎バス専用レーンであるが、朝の 8 ~ 10 時台ごろまでいつもふさがっている。もう少し送迎バス専用レーンを増やしていただきたい。</p>
委	員	<p>組合病院の件については申し訳ない。</p> <p>バス運賃の値下げについては、現在、経営が非常に厳しく、路線バスの赤字を高速バスやビル賃貸料で賄っている状況であり、今すぐ実現はできない。赤字経営を続けることにより、バス事業自体が維持できなくなることも考えられる。ご理解いただきたい。</p> <p>秋田駅東口 5 番線は、貸し切りバス発着所となっている。混み合っている場合は移動するよう指示が出ることもあるが、利用者どうし譲り合いながら使っていくしかない。</p>

委員	秋田駅東口5番線は、秋田県バス協会が市から委託を受けて管理しており、貸し切りバス専用としてレーンを空けている。東口のバス案内所には案内人がおり、常時バスの乗降を見て、著しく混雑し危険な場合はバスを誘導している。年末等は混雑することもあるが、最近は特に心配するような事態はない。組合病院の件については、路線バスは定時運行を確保しなければならないことと、ワンマンバスであるため、バスの運転手に個々の状況に対して細やかな判断を任せることは難しいことをご理解いただきたい。始発時刻が遅れると、時刻を間に合わせるためにスピードを出すことになる等、安全運行に問題が生じることが考えられる。
委員	定時運行の確保が必要なことは理解しているが、はっきりとした対応をとらず、こういった事態になるのは避けていただきたい。 秋田駅東口5番線については、レーンを増やすことは考えられないのか。ロータリー部分は使えないのか。
委員	レーンを増やすのは、スペース的に難しい。 ロータリー部分で乗降させてしまうと、人がタクシーや車と接触する可能性があり危険なため、歩道に沿った形で乗降させなければならない。
委員	登山やハイキングの季節になり、混雑が予想されるのはこれからではないのか。
委員	秋田駅東口5番線はバス協会の会員が利用することを前提としているが、混雑していない場合は、案内人の承諾があれば、一般の方でも利用できる。
事務局	資料「秋田市公共交通政策ビジョン(秋田市地域公共交通総合連携計画)(案)P93」に掲載されている乗り継ぎ拠点の件に関して補足したい。土崎駅まで路線を延伸することは、秋田中央交通(株)を含めて検討している段階である。準備が整っていない段階のため、資料に掲載することを見送ったが、準備が整えば進めていきたい考えである。 博物館については、博物館行きのバスであることを時刻表に明記する等の工夫があるだろう。また、地元地域で公共交通を運営してみたいという声も聞いており、それが実現すれば、より地域の方の意向に沿った運行が可能となるため、そういったことも含めて検討していきたい。
会長	組合病院のバス待合所に、バスが到着した際それを知らせるサインが点く等の工夫があれば、寒空の下で待たずにすむだろう。簡単な設備でも、利用者にとって非常に便利になることもある。 端末を使うなど、バスの運行情報を無人で提供しようとするコストがかかる等難しい。駅で駅員が何でも答えてくれるように、交通をコーディネートする人がいるとよいのではないだろうか。
委員	秋田駅東口5番線について、バス協会の会員以外が利用するバスは、一体どこに駐めればよいのか。中央街区の再開発の中にバスの待機所を増やすことを織り込んでいただきたい。 また、成人病センターの向かいにあるバスの待機所は開放する等の考えはないのだろうか。
事務局	中央街区の再開発の中で、バスターミナルについては計画していない。 成人病センターの向かいにあるバスの待機所は、ターミナル機能を担う拠点ではないため、公共交通政策上、位置づけられてはいない。

会	長	成人病センターの向かいにあるバスの待機所は、竿燈祭りの時期は開放している。	
委	員	町内等で、温泉等に出掛ける際、迎えのバスが入るスペースがない。これをなんとかできないものか。	
委	員	秋田駅東口5番線は、長時間駐車することは遠慮していただきたいが、温泉旅館のバスやスクールバスでも、乗降のために短時間使わせてほしい旨を話していただければ、便宜を図っている。これは日常的に行われていることである。	
委	員	秋田駅東口5番線に駐車していたら怒られたことがある。	
委	員	長時間駐車の為のスペースではない。 秋田駅西口・東口ともに、バスの案内所がある。そこではバスの回数券、定期券の販売もしており、東口5番線についても便宜を図るようにしているので、どうかそちらを利用していただきたい。	
委	員	乗り継ぎ拠点での交通案内についてだが、駅であれば観光案内所が併設されており、病院であれば総合案内所がある。そういった場所に、交通案内を委託するのはどうか。私は知らない場所に来た場合、バスの乗り場等は観光案内所に尋ねる。地元の方がいるため、大変親切に教えていただける。 観光案内のパンフレットの交通案内の欄は、自家用車によるアクセスを前提として記載されており、バスの利用は考慮されていないため、観光案内所はバスによるアクセスのための案内をするべきである。	
委	員	観光案内所は、高齢者には入りづらい。	
委	員	観光案内所は駅に併設されており、場所を示す案内も出ている。迷ったらすぐにそこへ行けばよい。	
会	長	交通案内等をできる人を雇用し、機械ではなく人を介して情報交換するというのは有効だろう。	
委	員	資料「秋田市公共交通政策ビジョン(案)に対する意見等の概要と協議会の考え方について(案)」No.43 で、パークアンドライドが不要という意見が出ているが、対応が書かれていない。パークアンドライドを実施するのなら、はっきりと主張として明示すべき。 資料に、パークアンドライドの方法について記述はないのか。	
事	務	局	資料「秋田市公共交通政策ビジョン(案)に対する意見等の概要と協議会の考え方について(案)」No.43 は新駅設置に伴うパークアンドライドの検討についての意見であり、新駅設置は現在協議中のためパークアンドライドには触れず、まとめて回答したものである。 また、資料にパークアンドライドについての記述はない。過去に社会実験を行ったところ、様々な課題があり実現が困難であったためである。

委 員	員	<p>新駅設置については、秋田支社として、JR 全体の今後 10 年の構想の中に盛り込んでもらうよう提案したが、この構想は現在、本社の方で検討中である。この構想が固まらなければ秋田市に示すこともできない。マスコミ等でも話題に上っているが、今すぐ着手できる状況ではない。長期的に秋田市と検討させていただく。</p>
委 員	員	<p>病院は、患者に対して処方箋を出す等の病院として当たり前のことだけでなく、待合所にバスの到着を知らせる仕組みを作るなどすれば、体調の悪い方が頃合いを見てバス停へ出ることができ便利になるのではないかと。これは利用者だけでなく、バスの運転手の負担も軽減できるのではないだろうか。コストはかかるだろうが、十分に効果が期待できるだろう。</p> <p>横断歩道で待ち時間が示されていると、安心して待っていられる。横断歩道とバスの待ち時間では時間の長さは違うものの、こういった小さなやさしさがあればバスを待つのも苦にならず、利用が増えるのではないだろうか。</p>
会 長	長	<p>かつて実施されたバスロケーションシステムは、そういった意味で利便性が高かった。これからは IC カード等の新しい技術を、やさしさや利便性を配慮して育てていくとよいだろう。</p>
委 員	員	<p>駅での交通案内表示は、市で作っているものも、バス協会で作っているものも、かなりの数がある。しかし利用者はその存在に気づいていないようだ。</p> <p>秋田駅前に来る人は忙しい人であり、なるべく周りを見ずにすぐに行動したいと思っているが、それに対し交通案内は、通行の邪魔にならない広い場所を選択して作られており、利用者とする側の目的が合致していない。</p> <p>利用者のニーズを把握し、利用者とする側が同じ目的で役に立つものを作っていきたいと考えている。要望があったら聞かせていただきたい。</p>
会 長	長	<p>利用者ニーズを把握することについて、資料「秋田市公共交通政策ビジョン(秋田市地域公共交通総合連携計画)(案)」に掲載されているのか。</p>
委 員	員	<p>雨や雪はまっすぐ降ってはこないため、バス停は屋根だけでは不十分。設置するならば、強風に耐えられるよう周囲に風除けのあるもの等、実際に役に立つものをお願いしたい。バス到着のサインについても同じである。</p>
委 員	員	<p>さきほどの会長のお話にあった、人を介した交通案内はぜひ実現していただきたい。</p> <p>バス案内サービスの端末の周囲には人が通行しており、存在に気づきにくい。観光案内所についても、何も知らない人にはたどり着くまでが大変であろう。</p>

事務局	<p>利用者ニーズの把握については、資料「秋田市公共交通政策ビジョン(秋田市地域公共交通総合連携計画)(案)P32の「基本的な方針」において、利用者ニーズを把握していく旨を記載している。また資料編では、様々な調査の結果を掲載している。利用者の声を聞いて施策に反映させていく考えである。</p> <p>バス停上屋については、資料「秋田市公共交通政策ビジョン(秋田市地域公共交通総合連携計画)(案)P60において記載している。秋田県バス協会と協力して、上屋の設置は進めているところである。</p> <p>人を介した交通案内は、前回、前々回の協議の中でも話題に上っている。資料「秋田市公共交通政策ビジョン(秋田市地域公共交通総合連携計画)(案)P75において、「モビリティ・マネジメント協力団体の公募」として記載している。様々なメディアを通じて秋田市公共交通協議会の周知をはかっているが、なかなか協力団体は現れない。その状況を打開するきっかけとして、市が今後モビリティ・マネジメントを行うにあたって、公共交通活性化に関する知識を持った市民を増やしていく考えである。</p>
会長	<p>資料「秋田市公共交通政策ビジョン(秋田市地域公共交通総合連携計画)(案)P32「基本的な方針」の「市民・地元関係者、交通事業者、行政の連携によるビジョンの推進」を前提に、様々な人々が知恵を出し合って、進めていきたいものである。</p>
会長	<p>これまで、いろいろとご意見を頂戴したところであるが、秋田市公共交通政策ビジョンについて、皆様にお示しの案で了承することとしてよろしいだろうか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>
会長	<p>それでは、秋田市公共交通政策ビジョンの案につきましては了承し、秋田市公共交通政策ビジョンとする。</p> <p>それでは委員の皆様、一年半にも及ぶ長い間、熱心にご協議いただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>議事終了</p>